

主要科目の目標、特長（福祉医療マネジメント研究科）

| 授業科目の名称    | 目標   | 特長   |
|------------|--|--|
| ビジネスプラン    | <p>授業の目的は、現状の福祉医療に関する組織の目的を再設定するための思考方法の修得と設定した目的を達成するためのビジネスプランを作成する能力の修得である。</p> <p>到達目標としては、①福祉医療を巡る環境（法・経済・技術・人口・社会など）を分析するための的確な情報収集ができ、②環境情報の分析から社会が求める課題探索をマネジメントの用語で説明し、③その課題解決のための手段を重要度に応じて列挙して、④客観的なデータによって論理的な仮説を構築できることである。</p>                           | <p>実際の福祉医療組織を題材として、社会が求める事業の探求と解決手法を探る。25名のクラスを5グループに分け、社会が求めるモノや組織の問題点を発見し、環境要因を考慮した課題解決方法を構築する。チーム内で知識を出し合い、課題と解決手段の因果関係を考察する。実務上、プランは実施により検証されるが、授業では、定期的にPDCAを回すことで問題点をメンバーで共有し、効率的組織と創造的アイデアを実現する発展的組織の構築方法を考える。情報共有のために、調査方法や分析手法も学習する。また、グループ毎に組織をつくることで、意思決定や権限と責任、リーダーシップとフォロワーシップ、プレゼンテーションの方法などを学修する。</p> |
| 課題プロジェクト研究 | <p>実務上、必要に迫られる課題や中長期的に改革すべき課題を発見し、課題解決の最適手段を提案する。</p> <p>この目的を達成するため、①課題探索過程で組織メンバーの意見交換ができる、②組織メンバーが課題を共通の問題として認識できるコミュニケーション能力をもつ、③問題解決の因果関係を分析し、仮説を構築する、④多職種が連携できる解決手段を構築する、⑤組織メンバー以外の関係者が理解できる客観的データで論理的な資料を作成できる、⑥作成資料に基づき、説得力のあるプレゼンテーションができること等が到達すべき目標となる。</p> | <p>本研究科で修得した知識を集約して、各自が解決すべき職場等の課題発見と解決方法の提案を行う。実務上の課題がテーマとなるため、制約条件は具体的内容となる。課題プロジェクトは3～5名程度の授業で教員と学生相互の意見交換をしつつ、プレゼンテーションのための報告資料にまとめられる。担当教員は、チームによるプロジェクトの取り組みが、個々人の単独の成果に比較してシナジー効果が生まれるようなコーディネーターの役割となる。最終成果は、研究科の教員と学生が参加する最終審査会で発表され、評価を受ける。</p>  |
| 経営学 I      | <p>授業の目的は、福祉・医療分野の組織運営において、経営学に基づいた理解を深め、ミクロ視点における経営戦略、経営管理といった組織運営の習得である。到達目標としては、①福祉・医療組織における経営課題を経営学の視点から探るとともに②その課題解決のために経営学の理論を重要度に応じて列挙し、③客観的なデータによって論理的な解決案を構築できることである。</p>   | <p>福祉医療分野の実務家にとって必要な経営学の基礎を学ぶ。経営学は、経営戦略論、経営管理論、経営組織論、マーケティング論などの企業経営全般を認識対象とする学問や、財務・会計、人事・労務、購買、生産、販売といった各職能に特化した学問領域がある。</p> <p>また、経済学や社会学、心理学などの異なる分析視点から考察される学際的研究である。</p> <p>こうした多面的な経営学を営利法人と非営利法人の両方の視点から考察し、経営学で用いられる専門用語を理解し、多職種連携のための共通言語として利用できるようにする。</p>  |

|                   |   |   |
|-------------------|---|---|
| <p>人的資源開発論</p>    | <p>【目的】ヘルスケア分野のHRMに関する概念と方法論をグローバル視点、国内ビジネス慣行視点から俯瞰して理解する。</p> <p>【到達目標】①HRMに関する雇用区分、社員格付け、採用、教育訓練、配置転換、昇進・昇格、人事評価、賃金管理、キャリア開発、福利厚生について理解する。</p> <p>②各自のキャリア開発の方向性を明確化する。</p> <p>③HRMに関する国際的な動向、日本国内の主要な特徴と動向について説明できる。</p> <p>④各自が関与している組織のHRMについて改善すべき点を指摘して、改善案を提案する。</p>                      | <p>人的資源管理（Human Resources Management:HRM）の基本的な方法論とカレント・イシューを共有する。HRMは、グローバルな慣行と国内の慣行の乖離が顕著な分野である。日本では、メンバーシップ型雇用慣行に加えヘルスケア分野ならではの制度的な特殊事情があり、グローバルなジョブ型雇用慣行との乖離を際立たせている。本授業では、これらの人的資源に関する乖離現象や特殊事情を捉え、HRMに関する分野すなわち、雇用区分、社員格付け、多職種連携、採用、教育訓練、配置転換、昇進・昇格、人事評価、賃金管理、キャリア開発、福利厚生、ワークスタイル等について議論してゆく。こうした知見をベースにして、参加者は、各人の身近な医療機関、福祉系組織、企業や職場の事例をとりあげ、実態や課題について報告・議論する。これらを通じ、HRMにかかわる理論や議論を踏まえて、積極的にディスカッションを加え、ヘルスケアHRMの現状や課題について考え、対策を講じる知力を養うものとする。</p> |
| <p>人材マーケティングⅠ</p> | <p>本科目は福祉関連を含む大手企業各社と、20余年にわたり、現場で新商品及び新サービスの企画・開発に携わってきた実務者による授業である。</p> <p>「人材マーケティングⅠ」では、近年における様々な社会環境の変化や技術革新が、各世代（ターゲット）の顧客ニーズにどのような変化をもたらしたかを体系的に理解し、顧客ニーズに対応できる人材の開発について考察する。</p> <p>また今後の福祉医療分野において求められるサービス像を、自発的に想起及び企画開発し得る能力を育む。そのうえで、組織に求められる人材の採用・開発について、多様な視点で発想することの重要性を理解する。</p> | <p>少子高齢化や共働き家庭の増加、AI、デジタル化などの影響を受け、様々な業界で顧客が求めるニーズやサービス像に大きな変化が起こっている。</p> <p>人材マーケティングⅠでは、様々な業界の商品・サービス開発や顧客分析に基づき、今後の社会で求められる福祉医療サービス人材とその開発に向けた視点やスキルを学ぶ。適宜、事例研究や履修者同士のディスカッションなどを交え、次世代の人材マーケティングを幅広い視点から捉えられる基礎的能力を育む。</p>   |
| <p>人材マーケティングⅡ</p> | <p>本科目は福祉関連を含む大手企業各社と、20余年にわたり、現場で新商品及び新サービスの企画・開発に携わってきた実務者による授業である。</p> <p>「人材マーケティングⅡ」では、近年における社会環境の変化や技術革新によって、企業経営や人材（人財）採用・開発の現場に何が起きているかを、異業種を含む様々な事例を基に理解し、社会が求める人材像を考察する。</p> <p>そのうえで、最新のテクノロジーや雇用（転職）マッチング戦略、今後の福祉医療業界に求められる人材採用・開発について、多様な視点で発想を膨らませながら、業界の未来にイノベーションを起こし得る人材を育む。</p> | <p>人材マーケティングⅠと同様に、我々を取り巻く社会環境の変化は、働き方にも影響を与え、希少資源である人材（人財）の配分に偏りや歪みを生じさせている。</p> <p>人材マーケティングⅡでは、従業員研修や人材マッチング事業の現状から、今後の社会で求められる採用マーケティングや雇用マッチング等の視点を学ぶ。履修者同士のディスカッションや事例研究を交え、次世代の人材マーケティングを自律的に発想できる応用力を身に着ける。</p>  |

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| <p>会計学基礎A</p> | <p>授業の目的は、福祉医療に関する組織の礎（羅針盤）となる財務諸表を俯瞰して読める能力の取得である。</p> <p>達成目標としては、①貸借対照表の内容を理解する。②損益計算書の内容を理解する。③キャッシュフロー計算書の内容を理解する。④グループワークでの考察力の取得。⑤ケーススタディでの洞察力の取得。</p>  | <p>「会計は経営の羅針盤」と言われる通り、多様な実務を数値化し、客観化しなければ各職能間の共通尺度がつかれない。福祉医療技術が優れていても、顧客や患者満足度が高くても、地域に長く福祉医療を提供するためにはその基礎となる経営が盤石でなければ継続できない。経営を数値化する会計を知ることによって経営の問題点や解決策を論じることができる。授業形態はスクール形式とグループワーク形式をミックスして行い、福祉医療からは離れた会計というものを身近に感じてもらえる授業とし、財務諸表を俯瞰して読めるようにする。</p>   |
| <p>DX（基礎）</p> | <p>授業の目的は、現在、「DX（digital transformation）」と呼ばれている現象が一体何なのか、その根本となるICT（Information Communication Technology）技術の用語を含む概念と歴史を正確に理解した上で、多くのケースを参照することで、実践におけるICTの導入による組織、企業のDX実現をイメージできるようになることである。加えてICTが経営に活用されるようになってから急激に起こった社会のソフトシフト化とそれに伴ったビジネスモデルの変化も理解する。</p> | <p>組織や企業のDX（digital transformation）の2つの経済的効果（売上向上／効率化によるコスト低減）の意味を理解した上で、組織や企業のDXを実践するための要素であるITシステム、IT人材、IT組織、IT法務、IT内部統制について整理理解する。その上で担当者が提唱する「IT前提経営」の6大要素（①デジタルネイティブ理解②モビリティ向上③働き方の効率化④クラウドサービスの適切な導入⑤AI*BigData*IoT⑥デジタルマーケティングの適切な運用）の概念を使い、多くのケースやストーリーを参照しながら議論をしていく。また基礎科目であるため、ICTに関する基礎的な概念、用語、歴史の修得も同時に行う。</p>   |
| <p>DX（応用）</p> | <p>企業組織におけるDXの3大要素（①データに基づく科学的経営 ②文化の更新 ③人事施策）を理解した上で、ICTの利活用が十分にできていない組織、または、ICTの利活用は一定程度出来ているが「文化の更新」が上手いかずDXが未完了の組織を、いかに次のフェーズ（「攻めのDX」フェーズ）に誘うかを実践的に議論することで、最終的には所属する組織において実行可能なDX施策を作ることを目的とする。加えて、所属する組織のDX完了によるビジネスモデルの変化についても具体的に議論できるようになることも目的とする。</p>  | <p>主に「DX（ICT）基礎」の履修者（又は同等程度に理解が及んでいる者）を対象にした応用科目である。事業を行う組織がDX（digital transformation）をする際に（1）どのようなICTを利用し（2）それをどのように組織に実装することで（3）何が実現できるかについて、具体的なケースを使って説明し理解を促してしていく。特に「IT前提経営」の6大要素の内の「IoT（モノのインターネット）*ビックデータ*AI（人工知能）」については時間を割き、「デジタルツイン時代の現場オペレーション」について考える。またWeb3に代表されるような「デジタル文化」についても学び、デジタル文化の理解なくしてDXの成功がないことを失敗事例から理解し、DXによる「働き方改革」を伴う医療福祉事業における課題をディスカッションしていく。</p> |

|               |   |  |
|---------------|---|--|
| ヘルスケア経営学      | <p>【目的】急速に変貌しているヘルスケア経営の実態をサービス科学、イノベーション創発の視点から理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①患者・住民中心の地域包括ケアシステムにおけるヘルスケア経営の多様性、実態を理解する。</p> <p>②変化するヘルスケア経営をイノベーション等の視点から理解し、自分の考え方を表明できるようになる。</p> <p>③ヘルスケアイノベーション生態系における自分の立ち位置を明確化する。</p> <p>④ヘルスケア経営の国際的な動向、日本国内の動向について説明できる。</p> | <p>ヘルスケア（保健・医療・福祉サービス）のマネジメントは、①ステークホルダー（患者、従業員、地域社会、取引先など）のウェル・ビーイング実現を主眼とする、②ヘルスケアという特殊なサービス財を対象とする、③ヘルスケアという準公共財を対象とする、④資本市場へのアクセスが制限されている、⑤医療政策、診療報酬制度等により経営資源の配分が誘導される等、競争的市場のもと一般産業用に開発されてきた伝統的な経営手法とは性格を異にする。医療サービスの価値は、生命、生活、人生などを含む探索的価値もあれば、良質な医療、安全な医療、効率を含める追求的価値もある。また、現在の医療サービスは、多職種連携によりヘルスケア関連の技術的新機軸を活用するという側面が強く、マネジメントの対象としてイノベーションの重要性が高まっている。本授業は、このような動向を押さえ、通常の医療管理学、先端的なサービス科学（Service Science）、ビジネス・モデリング論等の新旧におよぶ知見を踏まえて進めてゆく。本授業は各回ごとにキー・クエスチョンを学生と教員とが共有し、議論を深める。一方通行のコンテンツ依存型の授業ではなく、対話によるディスカッションを重視して知識創造の場としての授業を進化・深化させてゆく。</p> |
| メディカルスタッフ経営学Ⅰ | <p>本授業では、メディカルスタッフが医療・介護産業の特殊性を共有しつつ、経営や組織運営に関する共通言語を用いて、職場の問題点を探索し、その効率的な解決方法を選択するための論理的思考方法を習得することを目的とする。</p> <p>達成目標は、異なる職種間での連携を図るために、経営学の基礎的な専門用語を使いこなし、医療・介護組織の目的を高い次元で実現する能力の修得である。</p>  | <p>医療・介護専門職者が経営学を学ぶ重要な目的は、「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」など限られた経営資源を有効に活用し、医療・介護施設として結果を出すことで組織の「価値」を高めることである。しかし、これまでの医療機関においては、こうした組織の「価値」という視点が欠如しており、医療経営資源の有効活用が十分になされてこなかった。</p> <p>そこで本授業では、医療・介護領域の組織運営に関連した事象について、医療現場で働くプレイングマネージャーが、経営理論を用いて現場の課題や問題について、効率的な解決方法を選択するための経営学的論理的思考方法について考察する。</p>   |

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| 医療・介護ビジネス論 I  | <p>授業の目的は、大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用できるようにすることに設定し、ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等を医療・メディカルビジネスに応用していく。到達目標としては、PEST分析、5F分析、3W1H、SWOT分析、3C分析、STP分析等のフレームワークを医療・メディカルビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになること、シンプルなケースからスタートして最後には実際の病院・企業のケースも解けるようになること、自分でも課題設定し同課題を自分でも解決できるようになることに設定する。</p>        | <p>大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用する。各回、経営戦略、マーケティング戦略、リーダーシップ、人・組織等の視点で授業を行い、併せて実際の医療機関や介護施設等のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定を行う。PEST分析、5F分析、SWOT分析、3C分析、STP分析等の基礎的なフレームワークを学び、これを医療・介護ビジネスに活用する。大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用する。各回、経営戦略、マーケティング戦略、リーダーシップ、人・組織等の視点で授業を行い、併せて実際の医療機関や介護施設等のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定を行う。PEST分析、5F分析、SWOT分析、3C分析、STP分析等の基礎的なフレームワークを学び、これを医療・介護ビジネスに活用する。</p> |
| 医療・介護ビジネス論 II | <p>授業の目的は、大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用できるようにすることに設定し、ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等を医療・メディカルビジネスに応用していく。到達目標としては、PEST分析、5F分析、3W1H、SWOT分析、3C分析、STP分析等のフレームワークを介護・ヘルスケアビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになること、シンプルなケースからスタートして最後には実際の企業のケースも解けるようになること、自分でも課題設定し同課題を自分でも解決できるようになることに設定する。</p>           | <p>大学院で学ぶべき経営学の各主要領域を医療・介護ビジネスに応用する。IIでは、特に介護・ヘルスケアビジネスを対象とする。各回、経営戦略、マーケティング戦略、リーダーシップ、人・組織等の視点で授業を行い、併せて実際の医療機関や介護施設等のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定を行う。Iで学修したPEST分析、5F分析、SWOT分析、3C分析、STP分析等のフレームワークの医療・介護ビジネスへの応用をさらに発展させ、より実践的レベルの分析と各自の課題解決に取り組む。</p>   |
| 福祉医療の戦略経営 I   | <p>本講義では、福祉医療施設で活用できる基礎的な戦略論を厳選して解説し、その理論と戦略策定のツールを理解し、経営戦略論に関する体系的で実践的な知識を身につける。(1)経営戦略論の基礎的な概念や分析手法を理解すること (2)現実の福祉医療施設の経営行動に対して、講義で取り上げる経営戦略論のさまざまな視点から独自の分析を行う力を身につけることを、講義の目的とする。到達目標は(1)経営戦略論における基礎的な理論や概念を理解し、それらを説明できる。(2)経営戦略と戦略経営を説明できる。(3)現実の福祉医療組織が直面する様々な経営課題を分析し、その解決策を提案できるようになることである。</p> | <p>本授業は、大きく3部構成されている。</p> <p>第1部として、我が国の福祉医療経営の現状を概観し、個々の施設経営の課題を抽出する。</p> <p>第2部として、それらの経営課題をどのように解決していくかを、戦略経営の立場から、社会性を組み込んだ戦略論を議論する。</p> <p>第3部として、戦略経営のツールとしてのバランスト・スコアカード (balanced scorecard : BSC)の基本を理解するために、BSCの基礎理論を分かり易く解説する。その後、これらの基礎事項の理解を踏まえて、福祉医療組織でのBSCについて、受講生の経験などを交えて議論していく。</p>   |